

山型遊具の魅力

山型遊具は、表面がつるんとした滑らかなものから、ピラミッドのような階段状のものまで様々なものがあります。すべり台、昇降台、トンネル、はしごなどの遊具が備えられており、広場内で中心となって遊ばれる複合型遊具です。

山型遊具はジャングルジムや登り棒に比べ、手すりや階段などの助けによって登ることが容易であり、幼児でも比較的安全に利用することができます。体が発達してくると、すべり台状の斜面を逆から一気に駆け上がるといった、筋力や瞬発力を楽しむ遊び方も見られます。また、人が入れる程のほら穴を側面に持つタイプは、家のような、秘密基地のような空間を提供することで、おままごとやごっこ遊びといった、体を動かすことに留まらないロールプレイング・ゲームに利用されることもあります。ユニット型の遊具と違い、遊び方が子供にゆだねられるため、身体と知育の融合が魅力となります。また自然に多くの子どもが周辺に集まって遊ぶ山は、他者とのコミュニケーションも自然とに豊富となり、広場の中心的役割になります。

近年遊具の安全基準が厳しくなり、遊具が画一化するなか、プリン山のようなアクティビティは、「遊び価値」の高く、そして新設することが難しいという現状があります。

千駄谷小学校においてのプリン山は記念撮影などにも使われるため、記憶に刻まれるモニュメントにもなっています。

